

What's girls Artalk ?

Girls Artalk
アートに恋するワタシのメディア♡ガールズアートーク

株式会社 maru styling office

CONFIDENTIAL

「UIと中身がまったく違う」



人見知りのネクラです。

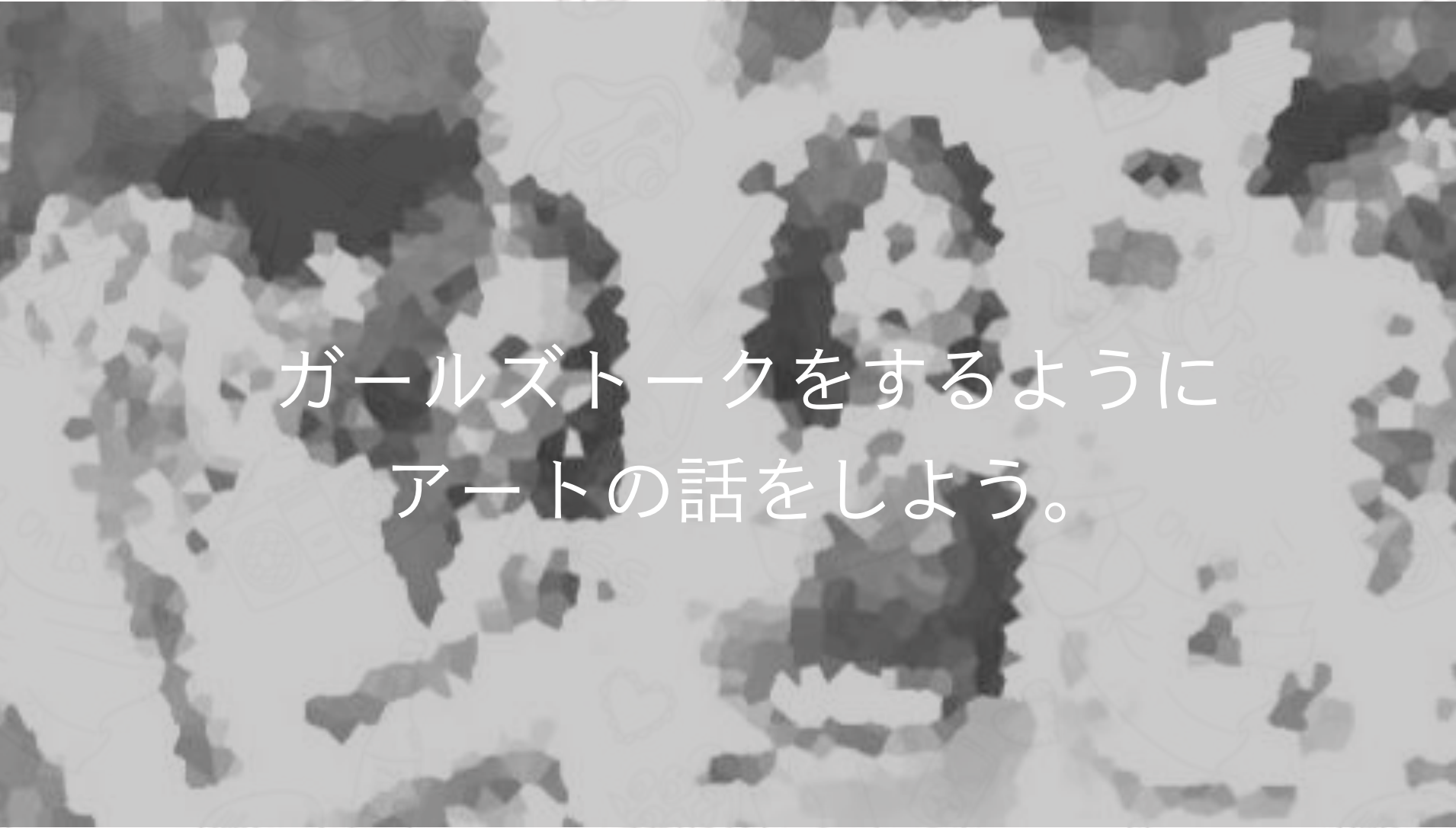
イラストレーターの両親のもと、幼いころからアートに触れ、強い関心を持って育つ。
大学時代からバックパッカーで世界40カ国を巡り、美術館やアートスポットなどにも足を運ぶ旅好き。
新卒採用で広告代理店に就職し営業として3年間勤務の後、アパレルEC部門の販促に約1年間関わる。その後、一念発起して独立。アート専門webマガジン「girls Artalk（ガールズ・アートーク）」を立ち上げ、アートの魅力を伝えることに日々奮闘している。

好きなものは、餃子とお酒と音楽と旅。

1. girls Artalkとは？



私たち girls Artalkは、
もっと多くの人、特に若い女性たちに、
もっと気軽に楽しくアートのある人生を楽しんでほしい。
そんな思いから生まれたメディアです。



ガールズトークをするように
アートの話をしてよう。

MEDIA NAME

girls Artalk (ガールズ・アートーク)

<http://girlsartalk.com/>



CONCEPT

ガールズトークをするように、アートのお話をしよう。
そんな想いから生まれました。

巷にあるアート系メディアは、ある程度アートに対する知識がないと楽しめない内容が多く、一部のアート好きのためにある状態。

日本を文化的に盛り上げていくために、これからの時代を担うパワー溢れる女性たちの心を豊かにすることから始めよう！ということで2013年にスタートした、アートをもっと身近に楽しむための等身大アートwebマガジンです。

TARGET

20歳代後半～30歳代後半の女性を中心

TOPIC

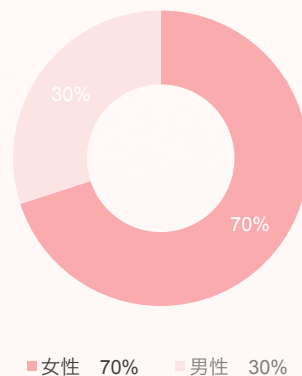
広義のアート（絵画、デザイン、音楽、ファッションなど、アートと親和性の高いカルチャー）

UPDATE

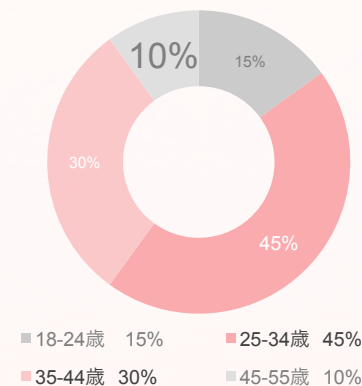
1日1～3記事程度

22-44歳が全体の75%

USER / GENDER



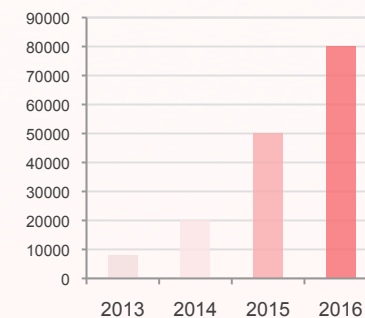
USER / AGE



PV

立ち上げから3年でPV数約40倍！

2014年12月末のリニューアルまでは、β版での運用



CONTENTS

Feature (特集・展覧会紹介)

美術館やギャラリーの展覧会の情報を女性ならではの視点によるおすすめポイントに基づき紹介。

今週のおすすめアートとしてHOTな情報も掲載している。

Event & Tour

自社企画イベント告知・

期間限定イベントレポート等

企業とのコラボレーション企画や、毎回異なるテーマに基づいた美術館&ギャラリーツアーなどアートに関するリアルイベントを開催。

期間限定のおすすめイベント情報やイベントレポートなどもあり。

Interview

アート業界人やアーティストのインタビュー。

なかなか聞けない素朴な疑問から女性ならではの質問で、素顔が見える一押しコンテンツ。

Column

さまざまな観点から、

アートを楽しむTipsを紹介

等身大の多様なコラムニストが様々な視点からアートにまつわるコラムを執筆中

Art date

恋する♡アートデート

男子による美術館デートのエスコートを、アート女子が辛口採点。アート男子育成の目的もあり。

2016年8月より、「SPICE」と連携・シリーズ化決定！

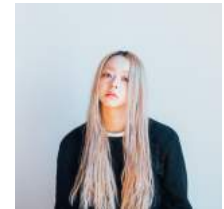
※「SPICE」との連携では、より女性読者を意識し『イケメンと行く妄想アートデート』と題して、読者が疑似アートデートを楽しめる設定に変更になります。

参考：

【月間約360万PV】
エンタメ特化型情報メディア「SPICE」
<http://spice.eplus.jp/>

メンバー紹介

メインターゲットである女性読者に近い目線をもった、
インフルエンサー、社会人、学生、料理家、臨床心理士、ライター、モデル、デザイナー、アーティスト…など
各方面で活躍中の発信力の高い女性ライターを多数起用。アートの魅力を伝えるべく、独自の目線で情報発信をしています。





2.コンテンツについて

イケメンと行く妄想アートデート

アートに興味のない層にも、もっとアートを楽しんでもらうために、身近なデートをフックに「アートデート」を提案するのが狙いの人気の連載企画。イープラスが運営するエンタメ情報メディア「SPICE」との共同企画コンテンツとなっており、両媒体で連載中。girls Artalk、SPICE共に女性読者が多いことから、女性読者がイケメンとアートデートを疑似体験できるコンテンツになっています。



過去事例

- ◆深くて新しい恵比寿篇
- ◆胸キュン六本木乃木坂篇
- ◆のんびりノスタルジック 神保町・竹橋篇
- ◆知る人ぞ知る 京都篇
- ◆遊び上手な大人の街、中目黒と六本木エリア
- ◆ヨコハマトリエンナーレ2017
- ◆谷中お散歩

女性読者に楽しんでもらうために、毎回異なるシナリオを設定。回を重ねるごとに認知度と話題性が高まっています。その土地やデート相手に合わせてデートコースを組み立てるため、土地の魅力を自然な形で伝えることが可能です。



イケメンと行く妄想アートデート

ヨコハマトリエンナーレ2017

<http://girlsartalk.com/artdate/27990.html>



CONFIDENTIAL

アートオタクな天使のスパルタ鑑賞塾

注目される機会が少ない美術館の「常設展示」にフォーカスした新しい企画。

美術館の常設展示は、美術館が資料として集めてきた作品のコレクションなので、美術や美術館のことを知るのに最適です。

アート初心者にもわかりやすいよう、美術評論家の花房太一さんを先生の天使役にお迎えし、編集長まと読者が一緒にアートを面白おかしく学べる会話形式のコンテンツとなっています。



過去事例

- ◆東京国立博物館編
- ◆東京国立近代美術館編
- ◆横浜美術館編
- ◆原美術館編

<番外編>

- 「リアル版」として、ヨーロッパを代表する芸術祭について、トークショーを行いました。
- ◆ヴェネチア・ビエンナーレ、ドクメンタ、ミュンスター彫刻プロジェクト編

出演者

●アートオタクな天使：花房 太一



1983年岡山県生まれ、慶応義塾大学総合政策学部卒業、東京大学大学院（文化資源学）修了。牛窓・亜細亜芸術交流祭・総合ディレクター、S-HOUSEミュージアム・アートディレクター。その他、108回の連続展示企画「失敗工房」、ネット番組「hanapusaTV」、飯盛希との批評家ユニット「東京不道徳批評」など、従来の美術批評家の枠にとどまらない多様な活動を展開。

●アート勉強中の編集長まと：新井 まる



イラストレーターの両親のもと、幼いころからアートに触れ、強い関心を持って育つ。

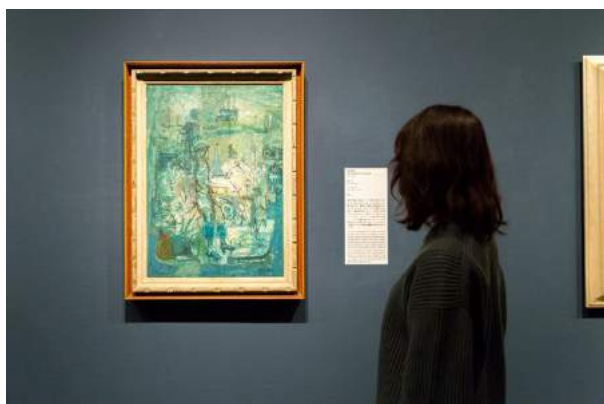
大学時代からバックパッカーで世界40カ国を巡り、美術館やアートスポットなどにも足を運ぶ旅好き。新卒採用で広告代理店に就職し営業として3年間勤務の後、アパレルEC部門の販促に約1年間関わる。その後、一念発起して独立。「girls Arttalk」を立ち上げ、アートの魅力を伝えることに日々奮闘している。



アートオタクな天使のスパルタ鑑賞塾

東京国立近代美術館

<http://girlsartalk.com/feature/24687.html>



インタビューシリーズ

アーティストの頭の中はどうなっているの？ アート界で働く女性はどうな人っているの？…

今までメディアではあまり取り上げられなかった、その人の人柄や生き方にまで迫る、girls Artalkのメインコンテンツのひとつです。

人を知れば、より作品やアートのお仕事について興味が湧くもの。そんなきっかけになればという想いがあります。



インタビューした方々（一部）

◆宮島達男さん（アーティスト）
◆吉田晃子さん（芸術新潮 編集長）
◆猪子寿之さん（teamLab代表）

◆山口晃さん（アーティスト）
◆行定勲さん（映画監督）
◆蓮沼執太さん（音楽家）

◆反田恭平さん（ピアニスト）
◆五木田智央さん（アーティスト）
◆アンドレア・バッティストーニさん（指揮者）



インタビュー

20歳の“Liszt”に失神寸前！ピアニスト 反田恭平の魅力

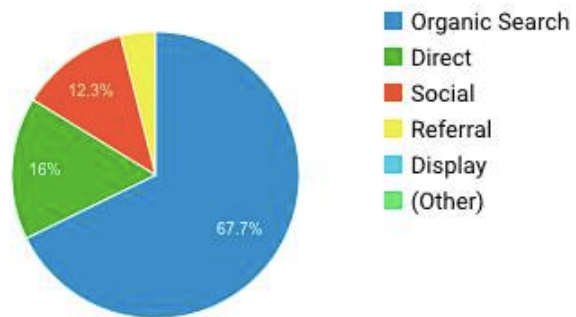
<http://girlsartalk.com/interview/18308.html>



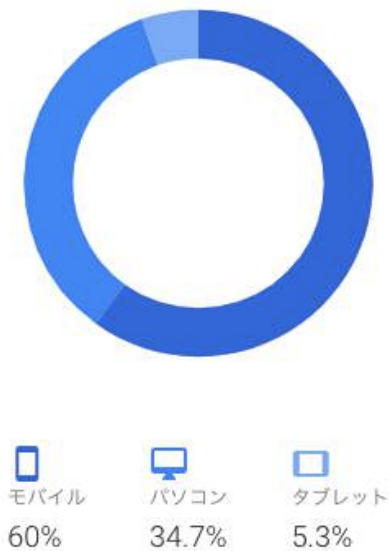
いいね！がたくさんつく・よく読まれる 記事って？

- きれいな写真、画像
- 内容
- タイトル
- 読みやすさ
- 投稿の時間帯

上位のチャネル



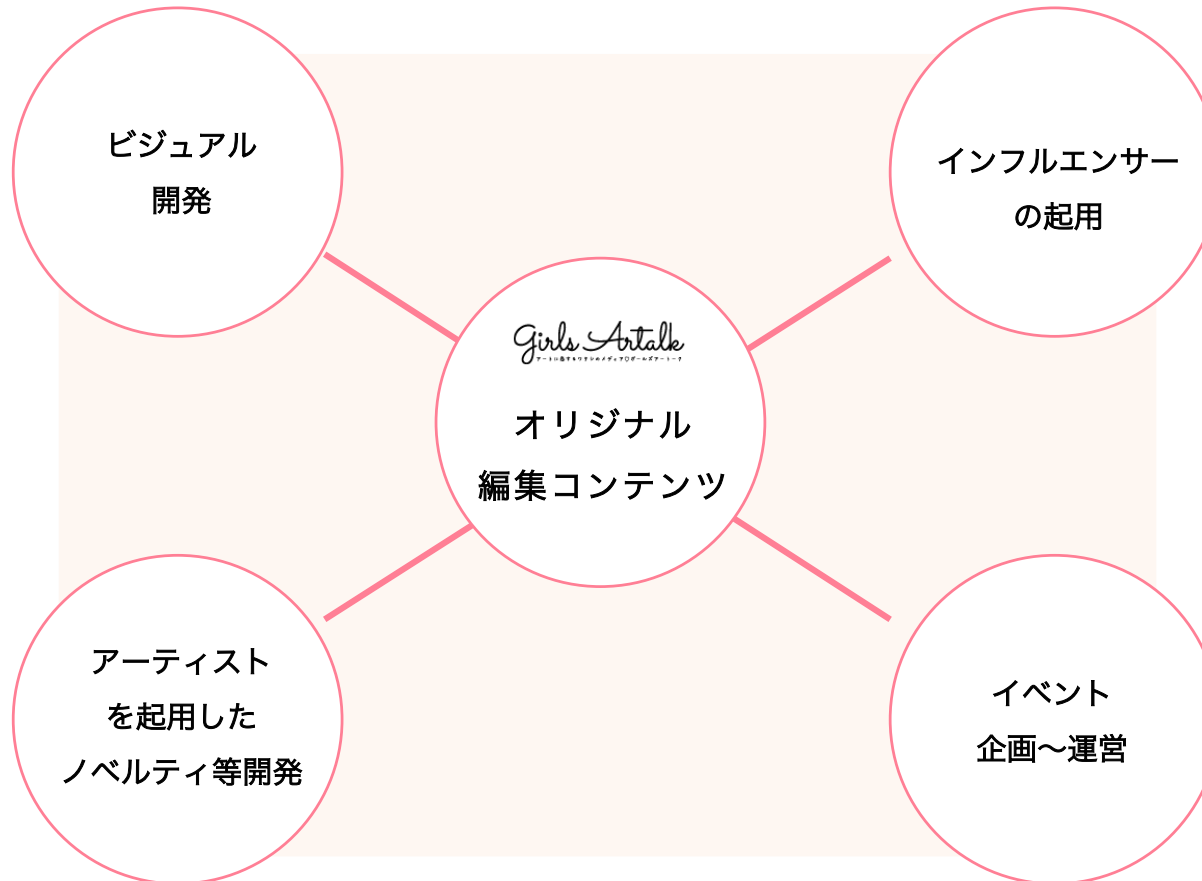
デバイス別セッション数



3.コラボレーション

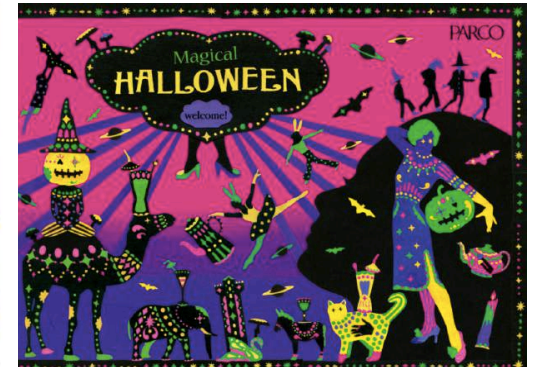
コラボレーション

アート専門webマガジンのgirls Artalkでは、記事タイアップなどコンテンツでのコラボレーションはもちろん、リソースを生かすことによってイベント企画運営や商品開発など、多岐にわたるアウトプットをご提供できます。



これまでの取り組みと事例

アクションのフックになる、女性に刺さるビジュアルのプロデュース。コンセプト立案、イベント企画・実施など。
様々なところに、アートのエッセンスを注入しています。



これまでの取り組みと事例

SHIBUYA MARK CITY Halloween 2015

アートを切り口に差別化をしていくのが狙い。ART MARK CITYプロジェクトの一環として、
アーティストコラボレーションのビジュアルをプロデュース。

オリジナルハロウィンアートの展示やスペシャルトークショー、ポストカード配布、girls Artalkへの記事掲載などの展開をしました。



- アーティスト金谷裕子さんによるオリジナルハロウィンアートを作成し、アベニュー広場に展示
- ゲスト・アーティストとgirls Artalk代表新井によるスペシャルトークショーを開催
- オリジナルポストカードを作成し、販促向上に寄与しました

これまでの取り組みと事例

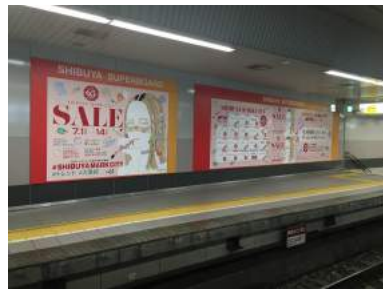
SHIBUYA MARK CITY SALE 2016～2017

2015年のハロウィン展開が好評だったことから、夏と冬のSALEビジュアルのプロデュースが決定。

2016年はイラストレーターeveさんを起用。夏はアンニュイな表情の女の子、冬は赤バックでよりセール感を出したビジュアルで展開しました。



●Summer SALE 売上前年比 108.1% 来館者数 111.7%



●Winter SALE



eve (イヴ)

イラストレーター

美術大学でグラフィックデザインを学び、現在は東京を拠点に活動。思春期の少女のもつ感情や、人間の欺瞞や不信、愛憎といったものを 作品にちりばめられた様々な要素で鑑賞者の内面に訴えかけている。おしゃれに敏感な女の子に支持される雑誌NYLON JAPANやPERKや、木村カエラなどのアーティストのジャケットなども手がける。アートwebマガジンgirls Artalkでイラストレーション・コラムを連載中。

<http://fxxkeve.com/>

これまでの取り組みと事例

SHIBUYA MARK CITY SALE 2017～2018

2016年に引き続き、マークシティSALEビジュアルに新進気鋭のアーティストを起用。

2017年は、一度見たら忘れないインパクトのある作品が特徴的な高城琢郎さん。

夏にはアベニュー広場で作品展も同時に開催、girls Artalkではインタビュー記事で興味喚起をするなど、ティザー展開をしました。



●Summer SALE



●Winter SALE



高城琢郎 (Takuro Takagi)

1989年生まれ。広告制作会社でグラフィックデザイナーとして働いた後、2016年にイラストレーターとして独立。広告、雑誌、TVなど様々な媒体で活動中。前職が広告制作会社のグラフィック・デザイナーということもあり、昨今の広告等で多く見かける線画のフラットな絵をさりりと見せつつも、グラフィカルで大胆な構図と抜群の配色センスで新しい風を吹き込んでいる。

<http://takurotakagi.weebly.com/>

これまでの取り組みと事例

PARCO Halloween 2016

～オトナ魔女～

表現としてのアートを掛け合わせ、オトナ世代の女性が楽しむ、新しいハロウィンの提案。

仮装で何かになりきるのではなく、自分なりのファッションを表現して、遊ぶ夜。

“オトナ魔女”をテーマにした展開のコンセプト立案～ビジュアルまで手がけました。



これまでの取り組みと事例

色彩検定 ～タイアップ事例～

色彩の専門家 城先生にgirls Artalkメンバーが絵画を例に色彩の質問をするというgirls Artalkならではの見せ方で記事を展開。

「色彩についての知識があると 美術館・ギャラリー巡りがもっと楽しくなる！」というメッセージを訴求。

記事の平均滞在時間3分以上と、しっかり読んでもらえた好事例になりました。



●2016/4/14～5/19の約1ヶ月間 Yahooに誘導バナーを掲載しました

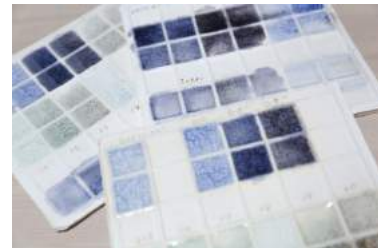
掲載1ヶ月間で

- ・7万PV以上
- ・ページ平均滞在時間：3分以上

これまでの取り組みと事例

株式会社リビタ THE SHARE HOTELS 「HATCHi」

2016年3月・金沢に「北陸ツーリズムの発地」がコンセプトのリノベーションホテルがオープン。
girls Artalkでは若手美術家・山本優美さんのインタビューのタイアップ記事、
展示のキュレーション、アトリエツアーの企画を担当しました。



● 「時間」をギュッと閉じ込める。記憶メディアとしての陶芸 美術作家・山本優美さんインタビュー <http://girlsartalk.com/interview/21158.html>



山本優美 (Masami Yamamoto)

1983年大阪生まれ。2007年金沢美術工芸大学美術学部工芸学科陶磁専攻卒業、
2009年ベルギー国立ラ・カンブル美術大学修士課程修了、
2013年金沢卯辰山工芸工房技術研修終了、現在石川県金沢市で制作を行う。
<http://www.yamamotomasami.com>

H ^ T C H i

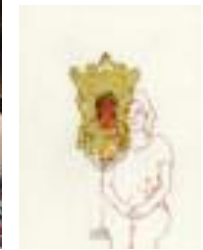
これまでの取り組みと事例

ISETAN新宿本店 girls Artalk Special Exhibition

伊勢丹新宿本店2Fファッションフロアー グローバルクローゼット内で「girlsArtalk Secial exhibition」と題したアート展を実施。

展示のキュレーション&ディレクションをgirlsArtalkが担当しました。

1回目の展示が好評で再度依頼を受けて約2ヶ月間にわたり2回展示を実施しました。



- 1回目アーティスト：MIka Tamori (2015年8月)
- 2回目アーティスト：Najmun Nahar (2015年9月)

これまでの取り組みと事例

天野喜孝 × SONY MUSIC

フィギュアスケート男子・羽生結弦選手のフリー演技で使用した楽曲「SEIMEI」の原曲を含めて収録したコンプリート盤CD。
girls Artalkがビジュアルワークを繋ぐコーディネートをさせていただきました。



●オリジナル・サウンドトラック「陰陽師」コンプリート盤（2015/11/25発売）

●羽生選手の絵が話題に

制作過程で描かれた先生直筆画は羽生選手に贈られ、
メディアで多く紹介され、SNSでも話題になりました



天野喜孝（Yoshitaka Amano）

1952年生まれ。竜の子プロダクションの社員時代に<ヤッターマン><ガッチャマン>など数々のヒット作を描く。1981年の連作イラストレーション<トワイライト・ワールズ>発表以来、SF・ファンタジー界に衝撃を与えつづけている。1987年、ゲームソフト<ファイナルファンタジー>のビジュアルコンセプトデザインで若い世代の圧倒的支持を獲得。現在はアーティストとして国内外で高い評価を得ている。

これまでの取り組みと事例

女性の「かわいい!」「欲しい!」が詰まった、
商品・ノベルティグッズをアーティストとコラボレーションで作りました。



●アーティスト プロフィール

eve(イヴ)



美術大学でグラフィックデザインを学び、現在はイラストレーターとして東京を拠点に活動。
おしゃれに敏感な女の子に支持される雑誌NYLON JAPANやPERKなどで活躍中。
またNYLON ブロッガーとしてのカルチャー感度の高い投稿や、アートに恋するワタシのメディア〜Girls Artalkでのイラストレーション・コラムも担当している。

●アーティスト プロフィール

箕輪麻紀子(Makiko Minowa)



イラストレーター。東京都出身、在住
武蔵野美術大学造形学部卒業。イラストレーション青山塾修了。
2011年よりhpgp GALLERY(アッシュ・ペー・フランス株式会社)キュレーションLUMINE meets ART MeganeZineShop、TokyoArtBookFair
などイベント、グループ展に多数出展。
広告、書籍、雑誌、ファッションなどの分野で活動中。

これまでの取り組みと事例

飲食店店内のアートキュレーションや、
集客施策としてのワークショップイベントの企画・運営なども行いました。



これまでの取り組みと事例

成城石井 Le Bar a Vin52 AZABU TOKYO 神谷町店

～成城石井が運営するワインバー「Le bar a vin52」の新店舗内壁面アートをキュレーション～

オフィスビルである城山ヒルズ内の店舗ということで、ランチに訪れるお客さんたちを癒やすオアシスをコンセプトに、
若手アーティストの支援の意味も込めて壁面アートのキュレーションをしました。
実際に訪れたお客さんからは、「購入したい」などの声があがるなど評判がいいようです。



室岡 小百合 (Sayuri Murooka)

1998年神奈川県生まれのフォトグラファー。青山学院大学在学中。高校3年次に、ロンドン芸術大学にて留学を経験し、ファッションフォトを学ぶ。ファッション系の雑誌や各媒体や展覧会で作品を発表する傍ら雑誌編集や翻訳なども行い、活躍の場を広げている。

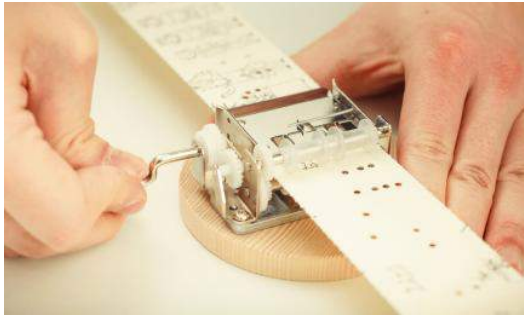
<https://thefifthsense.i-d.co/jp/kiji/5-things-sayurimurooka/>

これまでの取り組みと事例

成城石井 Le Bar a Vin52 AZABU TOKYO 神谷町店

～日曜日のスペシャルランチ ワークショップ～

週末はちょっといつもと違う上質な時間を過ごし、リフレッシュしていただけるオアシスのような場をお届けしたい。
そんな思いから、参加者がその道のプロアーティストから直接手ほどきを受けることができる
特別な日曜日のランチワークショップを隔月で開催しています。



過去のワークショップ例

- ◆紙巻きオルゴールで奏でる美味しい音楽
- ◆うっとり見惚れるフラワーライトを作ろう
- ◆フラワーアーティストと作る癒されスワッグ
- ◆小さなコラージュボックス作り
- ◆自分だけのデコレーションポーチ作り

これまでの取り組みと事例

周年イベントやアートツアー、コンサート・イベント、ワークショップなど、
様々なイベントを企画・実施しています。



これまでの取り組みと事例

東京フィルハーモニー交響楽団

初心者でも楽しめるクラシックコンサート 東京フィルとgirls Artalkが4年間に渡り様々な企画でコラボレーションしています

敷居が高いクラシックをもっと気軽に楽しもう！というコンセプトでコラボレーション企画を実施。
オーケストラコンサート初体験からすっかりファンになり、定期会員になるなど、リピーターも多い企画です。



一部事例

●はじめてのクラシック・コンサート体験

クラシックコンサート未体験の20～20歳の女性40名限定でコンサートを味わってもらおう企画。

この企画の参加者の中から、後日演奏に来たり、本場ウィーンにまで行くほどハマってしまう方も出るなど、嬉しい結果に結びつきました。

●コンサート付き！超入門クラシックサロン

レクチャー2回＋本番コンサート1回、全3回の企画。誰もが耳にしたことのあるあの曲から、コンサートの演目のショパン、スクリャービンについてなど、girls Artalk主宰の新井が初心者代表として、東京フィルの広報渉外部長の松田氏とトークをしました。こちらの参加者の中から、次回の1年間企画のリピーターも出ています。

●東京フィルのコンサートを1年間スペシャルシートで楽しもう！

1年間で合計8回のコンサートを、毎回同じ自分のシートで聴くという新習慣の提案企画。girls Artalk2周年の記念として超特別価格で提供。
演奏会の前には毎回プチレクチャーで作曲家や楽曲について解説。普段は見ることでできない、リハーサルを特別に見学できる特典もありました。

これまでの取り組みと事例

東京フィルハーモニー交響楽団

～ 料理家 太田みおのハーモニーレシピ ～

girls Artalkメンバー料理家太田みおによる大人気コラム「Art de la table」とのコラボレーション。
東京フィルの定期公演の曲目からインスピレーションを受けたレシピを考案。雰囲気のある写真と共にレシピを紹介しています。



●2016/4/14～5/19の約1ヶ月間 Yahooに誘導バナーを掲載しました



太田みお (Mio Ota)

料理家/ライフスタイルデザイナー

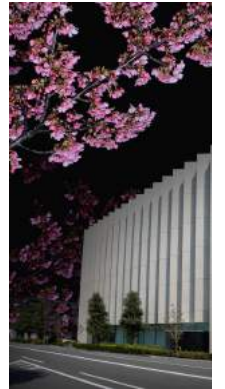
おもてなし料理とテーブルコーディネート教室lifestyle atelier MAGNOLIA主宰。

早稲田大学で芸術学を学び、レコード会社のディレクターを経て、料理の世界へ。辻調理師専門学校で日本料理とフランス・イタリア料理を学び、ナチュラルフードやハーブの資格も保有している。lifestyle atelier MAGNOLIAでは、おもてなし料理とテーブルコーディネート教室を開催中。また、インテリアコーディネーターとしても活動。暮らしそのものをアートととらえ、日々を心豊かに送るアイデアを発信している。企業へのレシピ提供、各種媒体でのコラム文筆をメインに活動。夫、3歳の娘、2歳の息子と4人家族。

これまでの取り組みと事例

girls Artalk 4 周年イベント NIGHT MUSEUM ～夜の美術館でお花見をしよう～

広尾にある日本画専門の美術館「山種美術館」を貸し切りでgirls Artalk 4 周年を祝うイベントを開催しました。
山種美術館の学芸員さんから直接解説をいただいた鑑賞会と、理想のアートデートのプレゼン大会の2部制。
当日は雨にも関わらず約150名の方に起こしいただきました。



- 【girls Artalk 4 th anniversary NIGHT MUSEUM～夜の美術館でお花見をしよう～】

3. girls Artalkのこれから

ひとの心を豊かに、しあわせにしていきたい

<メンバーにヒアリングしてみました>

- ・ 女性書いている、文章がやわらかい
- ・ 他の媒体と似ていない
- ・ ライターの顔が見える、素直な感想
- ・ 難しいことを感じないといけないんじゃない？ということから解放される。自由な感想をもていい！
→ 抽象的な話よりも、届かないと意味がない
- ・ 今の時代の「リアル」を伝えていく 素直な正直なメディア
- ・ 女の子が感じていることが俯瞰して見えてくる
- ・ 何かしらフックがありつつアートの垣根の高さをとりはらう
- ・ アート好きでもいいんだよ、というエール

なやみごと

- ① どうやってマネタイズするか？
- ② 本物のアートとキャッチーさ

グループワーク課題

girls Artalk 5 周年記念イベント

どんなイベントだったら行ってみたい？